

第12回 会社決算書アナリスト試験・出題の趣旨と学習の方向づけ

(注) この出題の趣旨はホームページに掲載した問題に拠っています。

問題の構成と内容の概観： テキスト（第5版）、第8章で示しているように、問題構成は4部構成になっており、正誤選択問題（第1問）、収益性の問題（第2問）、安全性の問題（第3問）、投資の問題（第4問）となっています。第1問は、第2問、第3問、第4問で扱えなかった事項からの出題で、広く決算書分析の知識を問う問題になっています。

それぞれの具体的な内容とテキストによる学習の方向づけは次のようになっています。

第1問は、決算書アナリストとして、決算書分析の全般の知識を問うております。テキストに沿い、復習のために、各問の該当のページを先ず掲げておきます。

- | | | | |
|--------------|-------------|--------------|--------------|
| 1. 29～30 ページ | 2. 12 ページ | 3. 18 ページ | 4. 14 ページ |
| 5. 58～59 ページ | 6. 49、9 ページ | 7. 19、21 ページ | 8. 19、20 ページ |
| 9. 18 ページ | 10. 42 ページ | | |

1は、分析方法の利用法、2から4は、決算書作成法に関わる決算書の見方、5は、分析指標の見方、6. は分析指標の作成法、7と8ならびに9は、次の問題で取り上げなかった財務諸表の見方に関わる問題、10は投資に係る問題です。これにより、決算書分析の問題として総ての分野の知識を習得しているかを問うております。

第2問は、収益性（テキスト、第4章）の問題です。外食業に、コロナ禍がどのような影響を与えたかを分析しています。先ずは、株式市場つまりは経済に与える指標として、ROE（テキスト、41 ページ）から始め、当該企業の収益構造へ分析を進めています。先ず、損益計算書を概観して、特別損失が大きいことを確認したうえで、本業の分析に入り、売上高営業利益率、売上高売上総利益率、売上高販売費及び一般管理費へと歩を進めています（テキスト、44～46 ページ）。結果、本業の業績低下には、値入れの問題ではなく、固定費ここでは例として人件費を掲げていますが、この要因が大きかったことを確認しています。

第3問は、安全性（テキスト、第5章）の問題です。ここでは、実際の企業（N社）が公表した実際の貸借対照表と損益計算書による分析を行う実践力を見ることも意図しております。

先ず、コロナ禍が収まりつつある中でROA（テキスト、38 ページ）により、N社の収益性が回復しつつあることを確認したうえで、短期的安全性（テキスト、52 ページ）および長期的安全性（テキスト、58～59 ページ）はどのような状態にあるかを確認しようとしています。N社のように財務的に安定している企業（貸借対照表貸方を見て下さい）は、コロナ禍のような危機があっても安全性には問題がないことが分かります。しかし、その影響をまともに受ける営業活動の安全性（テキスト、54 ページ）は確認しておく必要があります。そこで、これを分析しました。結果、営業活動の安全性は若干、悪くなったことが分かります。更に、この安全性の判断要素である売上債権（テキスト、55 ページ）

ジ)と仕入債務(テキスト、56ページ)の個々に分けて分析してみました。すると、N社は(コロナ禍の中で債権の安全性を求めたのでしょうか?)、売上債権の回収を早めていることも分かりました。

第4問は、投資(テキスト、第6章)の問題です。ここでは先ず、資料により投資に係る基本的指標、配当利回り(テキスト、71ページ)、配当性向(テキスト、42ページ)、PBR(テキスト、70ページ)、PER(テキスト、71ページ)を計算させています。ここで、株主になることにより得られる利得について、配当利回りである金銭による配当金だけではなく、会話で示した株主優待制度も考慮に入れて投資を考えると良いことも知って欲しいので、これを指摘しております。企業は自己の事業に関わる様々な恩恵を株主に与えています。例えば、ある私鉄の場合、株数により無料の乗車券を提供していますが、一定以上の株数を所有している株主には年間全線乗車無料のパスまで与えています。これはこの私鉄沿線に住んでいる人にとって大きな利得になりますね。

次に、目線を投資家から企業経営者の側に移して、PBR上昇の方法について問いました。目下、経済新聞では、PBRの改善が問題となっていますが、この方法の一つとしての自社株買いを問うています。ROEの上昇が株価の上昇に繋がりますが、結局、会計学の知識が必要になることも理解してもらいたいことも出題の意図にあります。このように本問では、株の話をも、投資家、上場企業側両面から問うています。

総括として、問題は、単に指標を丸暗記し、求められた指標計算をするのではなく、問題文を理解し、この中で扱っている現実の企業経営の姿を学んで欲しいという意図を込めて作成しております。この意味で、試験が終わってからも、問題文を思い出して復習して欲しいと思っております(問題はホームページに掲載しています)。また、テキストが第2部で、試験に関わる知識の説明に留まらず、更なる学習への誘導をしているのも企業経営に関わる幅広い知識を習得して欲しいという願いに基づいています。試験後、テキストをもう一度、学習してみてください。

なお、目下、解説を加えた過去問題集の発刊の企画もあります。更に、今回も第4問の**参考**で示したように、各問は独立ではなく(言わば問題のための問題ではなく)相互に関連を持つよう意図しながら作成しております。

【注意】一旦、入金された検定料は、理由に関わらず、お返ししませんので、ご注意願います。